

同窓会の若返りで活性化を



同窓会新会長 廣島 秀二(S26回)

コロナ禍はなかなか収まりそうにありませんが、会員の皆様には日頃から同窓会活動にご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。2022年度総会におきまして、ご勇退される山崎恒雄会長の後任に選任されたS26回の廣島です。

山崎前会長と比べると自らの力不足を痛感しております。つきましては、まず副会長の「担当分掌制」を設け、会の運営の活性化を図りたいと思います。続いてベテランの皆様のご協力はこれまで同様お願いしますが、若手会員・女性会員の皆様のパワーを活用して会の若返りを図りたいと考えております。皆様、同窓会に対しこれまで同様ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今後の継続的運営を願って

同窓会前会長 山崎 恒雄(S21回)



今般、創立110周年記念事業終了を機に、前松村敏人会長の後を受け、私は8年間の同窓会会長職を退任しました。故小崎義昭先生を同窓会の師と仰ぎ、精進してきました。これ迄に、10年会費の創設や同窓会広告を開始。更に、終身会費納入者へ返礼の九学校章の贈呈による安定収入に取り組みました。何とか道筋をつけたことには若干安堵しています。同窓会の継続的運営は安定した収入によると思います。

さて次期廣島秀二会長の厚き人望による、素晴らしいスタッフに絶大な期待をしています。私事ですが、令和4年の春の叙勲で、「瑞宝双光章」を受章できました事を退任の花道とし、今後とも九州学院と同窓会の発展を心よりご祈念申し上げます。

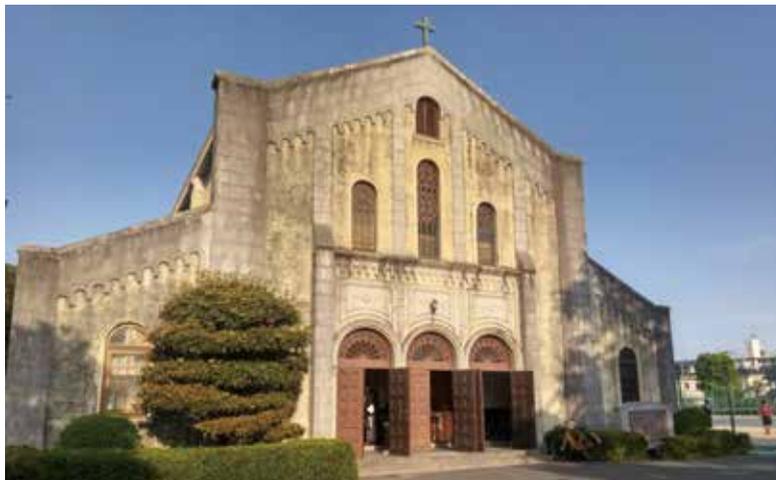


コロナによって活動が制限される中、各支部の皆様もいろいろと苦慮されていることと思います。

私共東京九学会も例外ではなく、昨年と一昨年は恒例の総会・懇親会を開催できず残念

2022同窓会定期総会を開催

～懇親会はコロナ禍のために中止～



4月22日(金)午後6時より「2022九州学院同窓会定期総会」が九州学院キャンパスに開催されました。あるブラウン・メモリアル・チャペルにて開催されました。

山崎恒雄同窓会会長(S21回)・小副川幸孝九州学院新院長の挨拶(代読)の後、林祥増氏(S34回)・原口隆一郎氏(S39回)が議長団に選出され、杉本素一事務局長(S39回)により令和3年度活動報告、同決算報告、令和4年度活動計画、同予算案などの審議がなされ満場一致で可決されました。

また、今年度は二年一度の役員改選の年です。今年度は、山崎恒雄会長から廣島秀二氏新会長(S26回)に交替するとう役員選考委員会の案が承認されました。山崎会長には2014年以来8年間の長きにわたり同窓会の発展のためにご尽力頂きご苦労様でした。

その他、副会長などの役職の一部交替案も承認され、来年こそは大同窓会懇親会が開催されることを期して「2022定期総会」は無事閉会となりました。

- ### 2022年同窓会活動計画
- 4月 同窓会定例総会
 - 5月 奨学金授与式
 - 6月 育友会役員会で10年会費について依頼
 - 9月 同窓会新聞発行
 - 10月 常任幹事会
 - 11月 「九学通信」に「同窓会だより」を掲載
 - 12月 「同窓会広告紙面」発行
 - 1月 若手の会主管チャペル成人式
 - 2月 「九学通信」に「同窓会だより」を掲載
 - 3月 常任幹事会
 - 4月 令和4年度高校卒業生(S75回)に同窓会活動の案内
 - 5月 新卒業生クラス幹事との懇親昼食会
 - 6月 高校卒業式 新卒業生に記念品贈呈
 - 7月 中学卒業式 新卒業生に記念品贈呈
 - 8月 常任幹事会
 - 9月 ※令和2年度から4年度まで、3年連続で新型コロナウイルス感染症防止のため、大同窓会は中止、総会のみ実施した。令和5年度の大同窓会については、新型コロナウイルス

2022年同窓会新役員

顧問 土山 研三(S8回)

内村 公春

小副川 幸孝

阿部 英樹(S28回)

松村 敏人(S6回)

山崎 恒雄(S21回)

相談役 浅川 牧夫(S12回)

岡嶋 勇治(S14回)

堤 公一(S18回)

緒方 徹(S18回)

廣島 秀二(S26回)

副会長 石橋 金治(S25回)

三浦 陽二(S28回)

坂田 和洋(S31回)

大久保孝介(S32回)

橋口 武弘(S35回)

杉本 素一(S39回)

高野 正晴(S23回)

井手 庸文(S25回)

木村 昭彦(S28回)

吉永 彰一(S36回)

青山 正志(S30回)

松永 修尚(S34回)

藤井 宏昭(S39回)

小手川 勲(S24回)

清田 優作(S51回)

後藤佑佳子(S49回)

杉本 素一(S39回)

高野 正晴(S23回)

井手 庸文(S25回)

木村 昭彦(S28回)

吉永 彰一(S36回)

青山 正志(S30回)

松永 修尚(S34回)

藤井 宏昭(S39回)

小手川 勲(S24回)

清田 優作(S51回)

後藤佑佳子(S49回)

東京九学会 会長 島本 誠(S30回)

コロナによって活動が制限される中、各支部の皆様もいろいろと苦慮されていることと思います。私共東京九学会も例外ではなく、昨年と一昨年は恒例の総会・懇親会を開催できず残念

関西九学会 会長 原田 敬策(S28回)

現在、コロナの影響で、全ての活動を中止しております。今後の予定は立てられませんが、今年度中には、関西九学会総会・懇親会が開催出来るよう計画と準備をと考えています。また、各クラブの関西での大会等、現地の応援が出来る事を心から願っています。さらに、進学・就職・転職等で関西に来られた方との交流についても考えていかなければと思っております。

福岡託麻ヶ原会 会長 野々口 稔(S22回)

みなさまの、ご健康、ご繁栄を祈念いたしまして、関西九学会の現状報告とさせていただきます。

我が「福岡託麻ヶ原会」の活動も2年前に勃発したコロナ禍の蔓延により同窓の宴の開催も出来ずに時間だけが過ぎて今日に至っております。このような状況が続けばまさに空虚な時間だけが過ぎてOB会の意義も失われていくような気がしてなりません。

九州同窓会

発行 九州学院同窓会
責任者 廣島秀二
編集人 小手川勲
熊本市中央区大江5丁目2-1
九州学院内
096-366-4533
<http://www.kyugakudousokai.jp/>
題字は 紫垣正弘・元同窓会会長

シリーズ 羽ばたく同窓生

熊本県弁護士会 会長に就任 福岡聡郎氏(J40回)



福岡聡郎氏(J40回)は、1987年卒は、4月1日付で熊本県弁護士会(281人所属)の会長に就任しました。益城町出身で1996年に司法試験合格を経て一東京弁護士会を経て2003年に登録を熊本に変更し、現在は主に医療過誤分野の訴訟で医療機関側の代理人を務めています。

たいと抱負を述べ、今後大きな期待が寄せられています。

全日本選抜七段剣道選手権で優勝 亀井隼人氏(S51回)



4月16日(土)、第9回全日本選抜剣道七段選手権大会(横浜七段戦)が神奈川県立武道館で行われ、決勝戦は亀井隼人氏(S51回)・神奈川県警と内村良一氏(S51回・東京警視庁)の九州同級生対決とな

競泳日本選手権 準優勝!日本代表 緒方温菜氏(J70回)



4月28日(土)5月1日に横浜国際プールで行われた競泳の日本選手権において、緒方温菜選手(J70回・中央大学3年)が、女子200メートル平泳ぎでトップと僅か0秒74差で準優勝しました。当大会と先の国際大会派遣選考会の結果をもとに9月の「第19回アジア競技大会(中国・杭州)」の派遣選手として正式決定しました。なお、中国・成都で開催される「FISUワールドユニバーシティゲームズ(6/27~7/3)競

である内村氏を破り優勝を果たしました。

後輩に贈る言葉

~「水産のスペシャリスト」を目指ませんか~

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校 校長 下川伸也 (S31回)



1979(昭和54)年に九州学院高を卒業し、水産大学校へ入学。卒業後に漁業会社の遠洋トロール漁船で航海士を務め、現在は水産大学校で教授として勤務しています。さらに、2022年4月より校長を拝命しました。水産大学校は、我が国唯一の農林水産省を主務省とする水産に関する高等教育機関であり、現在は国立研究開発法人水産研究・教育機構の人材育成を担う部署として山口県下関市に所在し、学生数約900名で水産のあらゆる分野を学ぶことができる教育体制のもと、関連する諸課題に関わる基礎から応用に至るまでの研究が行なわれています。

「21世紀は食と環境の時代」とされています。国連ではSDGs(持続可能な開発目標)が採択され、17の開発目標の中でも目標14では、「海の豊かさを守ろう」と掲げられています。人類共有の財産である「海からの恵み」を維持し、限られた水産資源を持続可能な形で利用するために適切な資源管理や漁業・養殖業の生産性向上及び流通構造の改革などを断行し、多岐にわたる水産分野で活躍できる人材の育成が急務となっています。将来、国内外の水産業界で活躍し、「水産のスペシャリスト」を目指す意欲に満ちた後輩の皆さんの参加を待っています。



(写真:練習船内で訓示を行う下川氏)

水産分野で活躍できる人材の育成が急務となっています。将来、国内外の水産業界で活躍し、「水産のスペシャリスト」を目指す意欲に満ちた後輩の皆さんの参加を待っています。

メタルアート4点を母校に寄贈

鶴田淳一氏(S17回)

「メタルアート」を手がけている鶴田淳一氏(S17回・1965年卒)から自身の作品4点が母校に寄贈され、3号館多目的ホールに飾られています。メタルアートとは木板に金属などの材料で立体的に対象物が描かれたもので、作品には「キリストの涙」「夢見る頃」などという意味のイタリア語でタイトルが付けられています。



Quando-sogno

鶴田氏は歯科技工士の仕事の傍ら義歯製作の技術を活かして趣味でメタルアートに挑戦し、多くの作品を手がけています。南阿蘇に工房を兼ねた「ギャラリー・ビベレ」というキャビンを構え制作活動に勤しんでおられます。



(写真:小副川院長に作品を渡す鶴田氏)

歴史を研究するということ

九州大学比較社会文化研究院 花岡 興史(S32回)

次々に新しい史料(古文書)の発見や自説により従来の学説が書き換えていく、これが歴史研究の醍醐味です。勉強と研究は全く異なります。今まで世界中の誰かが一人でも述べていたことを知ることは全て勉強になります。研究は誰もが言っていなかったことを証明することです。私の最近の研究成果は、豊臣秀吉の文書を発見したことにはじまります。メディア等で複数回取り上げられました。この発見により、断絶したといわれていた宗像大社(世界遺産)の唯一の正統な子孫が熊本にいたことを証明したのです。子孫の方も明確にはご存じないことでした。そのご子孫が喜んで頂いたことも研究者としての名誉でもあります。

歴史は暗記科目と揶揄されることもありますが、研究者としての立場からは全く異なる視野がそこには広がっているのです。



故佐々木先生(九学元英語教師)とヘレン・ケラー女史の友情が番組に

九州学院の英語教師だった故佐々木千歳先生は、ヘレン・ケラー女史が戦後日本で講演行脚をした際に2ヶ月間同行して通訳をしたことで知られています。その8年後に佐々木先生がアメリカに行つてヘレン・ケラー女史を訪ねた際に、目の不自由な女史が握手しただけでその手の感触から誰であるかが判り「お、ササキ」と口を動かしたという有名なエピソードが残されています。



実は、このエピソードについてはテレビ番組制作会社が東京から同窓会事務局に取材に来られ、3月30日にNHKBS4Kの「偉人に挑戦!ヘレン・ケラー」と宮本武蔵く伝説の



○佐々木千歳(ささき ちとせ)

日本語学校の校長を父にハワイで生まれる。灯影女学園(現府立阿倍野高校)職員時の1937年、ヘレン・ケラー女史が来日の際、同校の校長の紹介で通訳に抜擢される。1948年、九州学院の英語科教諭となり、同年8月、再来日した同女史の通訳として二カ月間の全国講演の行脚に同行。1951年、フルブライト留学生としてコロンビア大学に入学。フランクリン・ペーカー賞を受賞し卒業。帰国後は洗練された英語で指導力を発揮、高松宮杯全国中学校英語弁論大会などで優勝者を輩出するなど活躍を続けた。77歳で天に召される。

佐々木氏の略歴

ナルドの重奨学生認証式

6月13日、1号館会議室において2022年度九州学院ナルドの重奨学生に

対する認証式が行われました。この制度は創立70周年記念事業の一環として1983年から同窓会が始めた英奨学事業が、2015年から九州学院ナルドの重奨学に

3月に高校(S74回)、中学校(J75回)の卒業証書授与式がそれぞれ挙行され、九州学院

同窓会から卒業生に記念品を贈呈

今年度の育英奨学金支給対象者は中学生3人、高校生3人が選ばれ、授与式では小副川院長と青山育英奨学委員長との挨拶の後、奨学生一人一人に認定証と奨学金が手渡されました。